

平成29年度第7回郡上市男女共同参画推進会議 要録

期 日 平成30年1月24日（水） 15:45～17:00
場 所 郡上市役所 大会議室
出席者 推進委員6名（新井浩司、小島昭彦、小林道弘、村瀬一将、澤谷美津江、和田明美）※敬称略
企画課 酒井、和田

1. 開会（澤谷会長）

2. 議事

(1) 第8回ともいきフェアの振り返り

○別紙資料事務局説明

（委員）託児員4名に対して、子どもが多いように感じた。託児援助者数は子どもの数によって決まっているが、問題はなかったか。

（事務局）託児室には親がついている子どもが多くいた、また託児員からもそのようなことを懸念する意見は聞いていない。託児員が気にしていたことは、託児室が開放してあったので、託児で預かった子どもが親と託児室を行ききしたので親に迷惑でなかったかということである。この点についても、親から苦情など聞いていないので気にすべきことではないかと思う。

（委員）今回、ダンスチームをオープニングに取り入れたことは良かった。今まで同じ年代層の参加者でちょっと行き詰った感じのともいきフェアにであったが、また違った方向が見えた感じであった。

（委員）マルシェは、手作りの物の販売ということもあって結構値段高い感じがした。売上はあったのだろうか。

（委員）売り上げについてはこちらの関与するところではない。女性起業家として、こんな活動をしているということを皆さんに知ってもらう場としてはよかったのではないか。

(2) 平成30年度以降の市民等の推進体制について

○別紙資料事務局説明

（委員）高校生や若い世代を取り込むことはよいことである。

（委員）企業にサポーターになっていただくことはハードルが高いのではないか。企業は利益を追従するものなのでよほどメリットがないとサポーターになってくれないのではないか。地域貢献ということでサポーターになってくれる企業もあるかもしれない。

- (委員) 講座やともいきフェアにおいて、企業が PR できる場を持てるとサポーターになっていただけるのではないかと。「〇〇会社が男女共同参画サポーターですよ」と広く周知して、企業に良いイメージがつくなどメリットがあるようにするとよいのではないかと。
- (委員) 企業が動かないと、その企業内にいる個人が動くことができないので、企業が男女共同参画へ取り組むことが当たり前のことになるようにしないとイケない。
- (委員) サポーターがエクセレント企業への道となることはよいが、エクセレント企業というレベルが高く大きな企業しか手を出せない感じにとれる。また会議への参加が難しい企業もあると思うが、それぞれの企業で出来る範囲でサポーターになってもらえばよいのではないかと。
- (委員) 学生がサポーターになると、企業にとっては Face to face で話すことができる場となってよいのではないかと。メリットに感じてもらえるのではないかと。
- (委員) サポーターになって人が増えれば、もっといろいろな活動ができると思う。数人が一組になって男女共同参画を知ってもらうためにチラシを配ったりなどして周知することもできる。今まで、「足で稼いで広報をする」ということができなかったが、このようなことができるようになるのではないかと。
- (委員) これまでは、ともいきフェアのイベントを開くことばかりであったが、イベントを開催しているところに出かけて行って男女共同参画を PR することもよいのではないかと。
- (委員) 推進会議とサポーターの 2 段構えで構成してもよいのではないかと。
- (委員) サポーターは会長などを置かないということであるが、誰か中心となる人を置いた方がよいのではないかと。

(3) 郡上市男女共同参画推進条例（案）について

○別紙資料事務局説明。現在パブリックコメントを実施しているので、一度市ホームページをご覧ください、意見等あればご記入していただくよう依頼。

(4) その他

- ・平成 30 年度「男女共同参画週間」のキャッチフレーズの募集について

○別紙資料事務局説明

3. 閉会（小島副会長）

以上